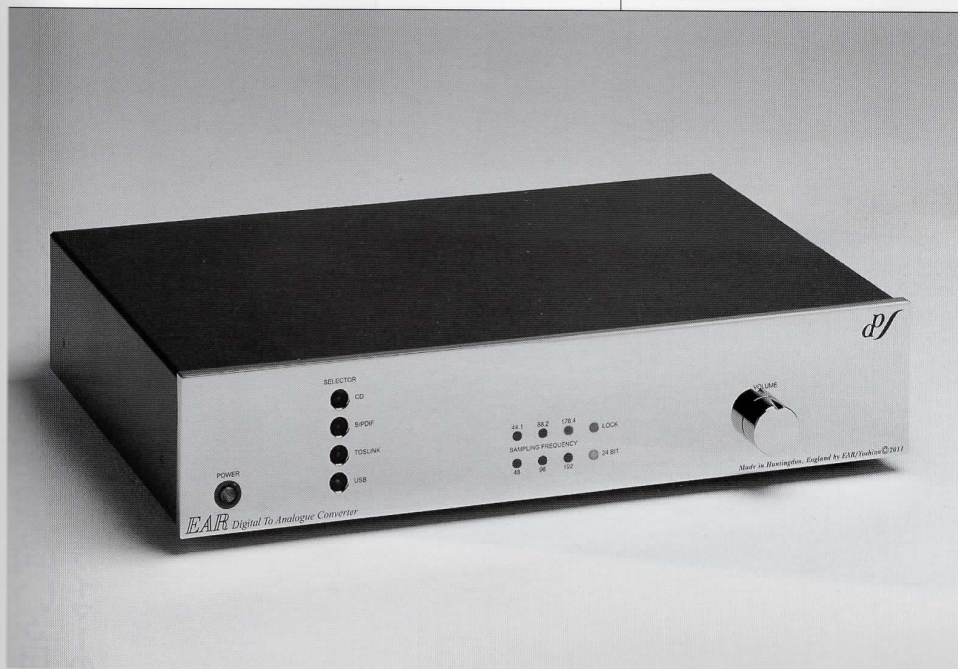


●デジタル入力:同軸2系統(RCA)、光1系統(TOS)、USB 1系統(Bタイプ~192kHz) ●アナログ出力:アンバランス1系統(RCA)、バランス1系統(XLR) ●使用真空管:PCC88×2 ●寸法/重量:W435×H95×D320mm/7kg ●備考:写真・価格はクローム仕上げ、他にブラック仕上げ(¥728,000)、ラックマウント仕様で黒/シルバー各色25台の限定モデルDefinitive DAC(¥798,000)あり。バランス出力HOT=2番ピン ●問合せ先: (株)ヨシノレーディング ☎050(3375)3975

EAR
Dacute
¥798,000



192kHz / 24ビットのUSB入力に対応する、EARのD/Aコンバーター。真空管を用いた出力段を搭載——山本浩司
音像リアリズムを重視した、味わいの濃いサウンド

管球式アンプ設計の鬼才として名高いティム・デ・パラヴィチーニが主宰するEAR(英国)から登場したUSB 2.0入力を備えたアナログボリュウム付きD/Aコンバーターの新星、それがDacute(ダキュート)だ。専用ドライバをインストールすることで、192kHz/24ビットまでのハイレゾファイルに対応するこの製品の最大の特徴は、パラヴィチーニの設計によるアナログフィルターと2本の真空管(PC88)をオリジナル設計のトランスにカップリングさせた出力段の採用にある。

まずボリュウムを最大設定とし、本誌リファレンスプリアンプ(アキュフェーズC3800)にバランス/アンバランス出力をつないでその音をチェックする。音を磨きすぎない、實在感に富んだ味わいの濃いサウンド。それが本機の音の第一印象。透明感よりも音像のリアリティを重視したい筆者にはしっくりとくる音調だ。バランス/アンバランス出力を聴き比べると、後者のほうが情報量が多く、ヴォーカルもいっそう艶かしい。フーバー2000・WASAP

I排他モードで聴く「キス・オン・ザ・ボトム/ポール・マッカートニー」(96kHz/24ビットFLAC)の弾むようなグルーブの表現は文句ないし、ヴィンテージ・アナログ・イクイップメンツを駆使して録音されたこの音源のゴージャスな雰囲気描写力にもおおいに感心した。ローランド・パティックの弾くハイドンのピアノ・コンチェルト(HQMストア・96kHz/24ビットWAV)の艶のあるストリングスのひびき、ピアノの実体感に満ちた剛毅な味わい、扇型のサウンドステージをむやみに広げない凝縮型の音場表現も本機ならではの魅力といつていいだろう。

それから特筆しておきたいのは、本機のボリュウムを使つた可変出力の音のよさ。先述した音像リアリズムを重視した本機の持ち味が本誌リファレンスプリアンプを通すよりもよりいっそう鮮明になる印象で、「エラ&ルイ」(96kHz/24ビットFLAC)のエラ・フィッツジェラルドの慈愛に満ちた濃い口のヴォーカル、聴き手へと向かって直進するサッチモのトランペットの深々としたひびきに陶然となった。